

令和 7 年 8 月 5 日

各 位

関門海峡花火大会実行委員会門司

会長 宮田 親志

【関門海峡花火大会における安全対策について】

8 月 4 日横浜みなとみらいで発生した花火大会の台船火災事故を受け、当会の安全対策について下記の通りご報告申し上げます。当該事故の原因究明までには至っておりませんが、当会では多角的な可能性を考慮し安全対策を再徹底致しております。

■【台船上における安全対策】

打ち上げ時、台船上に作業員は最小限にとどめており、作業終了後は全員が速やかに退避しております。安全性確保のため、以下の具体策を講じております。

- 点火ブースによる避難場所の確保：例年使用していた土嚢による避難場所を見直し、本年度から点火ブースを積載、打上中の作業員避難場所を安全に確保します。((公)日本煙火協会適合基準)
- 作業員数の最小化：必要最低限の人員で台船上の作業を行い、リスクを最小化します。
- 救命装備の徹底：台船作業員は全員が救命胴衣を着用し、転落事故など緊急時に即対応できる態勢を整えています。（関門海峡は潮の流れが速く、海への避難はかえって危険であるため、無線を利用し、台船上の状況を共有します）
- 発光用具の装備：万一の海中避難時に備え、発光マーカー等を携帯します。
- 退避ルートの事前確認：事故発生時の救助手順を事前共有します。
（無線を利用し、警戒船含む各所に状況の共有）
- 台線上にある可燃物は可能な限り撤去し、撤去できないものは点火ブース内など安全な場所に移動、また不燃物素材（ステンレスの筒）を使用した花火の打ち上げを行います。

今後さらに、専門業者・関係機関とも連携し、非常時マニュアルの強化・共有を進めてまいります。

■【陸上における安全対策】

花火会場においても、観客・運営スタッフの安全を最優先に、以下のような対策を実施しています。

- 保安区域の厳守：打ち上げエリアと観客席の間に関係機関指導のもと十分な安全距離を確保します。
- 誤発対策の構造設計：誤発射が起きたとしても観客席には届かない配置・設営を行います。
- 花火筒の多重固定：打ち上げ筒は架台や複数の固定具で厳重に設置し、倒壊や横転を防止します。
- 万一の火災対応：火災が発生しても、観客側に影響が及ばない配置と消火体制を整備します。

関門海峡花火大会は「日本一安全な花火大会」を目指し、花火打ち上げ業者・台船運航会社・消防・警察・海保・関係自治体と綿密に連携を取りながら運営しております。

以上